

幼稚園の生活

— 記録を中心に —

幼稚園の子どもの日常生活の中には、学ぶこと、おもしろいこと、考えてみることなどがたくさんあります。ここに、幼稚園での生活のひとコマの記録をとり、子どもについて考えてみたいと思います。

・他の子にすらっとギンナンをあげるのに、T子は、Mがもっているのをみつけると、Mからとりかえず。

園庭のはずれにある山の上に、ハチを見にいておりてきた五人の女の子のグループ。

山で四、五本のタンポポを摘んできたA子。

A子「だれかにだれかにこれあげる」とタンポポをかざす。

「ハイ」と口々に手をあげる。

A子「T子ちゃんにあげる」T子もらう。

A子・T子「ねー」とこしをおり、顔を見合わせ同意する。

A子「だれかにだれかにこれあげる」

「ハイ」B子がもらう。

T子「だれかにだれかにギンナンひとつあげる」山の上にいる時から持っている黒ずんだギンナンをかざす。

「ハイ」C子がもらう。

記録

・日時 昭和四十五年五月十一日

十時二十五分より約三十分間

・場所 お茶の水女子大学附属幼稚園

・対象児 三年保育四歳児のT子(女児)とM(男児)の二人

の関係を中心に。

一、ものあげっこ

(・タンポポの花、ギンナンをまわりの子にあげる。

C子から黒いギンナンをもらっているMを見て、

T子「それ、わたしのだからちようだい」といってとり、手の中ににぎりこむ。

二、ビニールの袋の中の虫をみつける

すぐうしろに虫のはいっているビニールの袋をみつけて、T子「虫よノキャーッ」といってにげる。そばにいる四、五人の子どももその袋のそばによつていって「キャーッ」といってにげ、またよつていって「キャーッ」といってにげる。

(別にこわいわけではなく、リズムを楽しんでいるようだ)

T子はA子に「キャーッ」といってだきつく。おりながら、A子に、「ブランコにのりましょうよ」とさそふ。

二人でブランコの方に走ろうとすると、虫のところから「キャーッ」といってにげてきた子とA子がぶつかり、顔をうち、いたがりブランコどころではない。

三、のぼり棒にのぼる

T子はそばにいたMに、「お水の手できましようか？」というが、M何もいわない。が、走つてのぼり棒の方に行く。

T子もおいかけていく。M、上までのぼる。T子、となりの棒の三分の二ぐらいまでのぼる。T子おりながら「ブランコにのりましょうよ」Mはそのことばにおり、ブランコの方にはしる。

四、ブランコ①——速さのきょうそう

(・T子の方が、ブランコをよくこげる。Mは、T子をおいぬこうと立ってこいだり努力するが、どうしてもT子をおいぬけない。その時のMの気持が、ことばや動作によく表われている。)

二人ともブランコにすわり、足いっぱいうしろにひいて、T子の「よいドン」でうごきはじめる。

T子の方がいきおいよくこげる。M、それをみながら、ブランコに立ち、こぐ。でも、T子の方がいきおいがよい。

M「おそいほうがいいんだよ」

T子、速度をおとしはじめる。

M「まだはやいよノおそいほうノ」

T子は足を地面に軽くこすりながら、速度をおとしていく。Mの方がいくらかよくこげている。

M「おそいほうじゃないノはやいほうノ」

T子は力いっぱいこぎだす。Mも真剣な顔をして力を入れてこぐ。でもT子よりはどうしてもいきおいよくこげない。

M、下を向いて「おそいほう」という。T子、地面に足をつけて速度をおとす。M、速度をおとしながら、パッと足をつけてブランコからはなれて部屋の方へ走っていく。T子もあとにつづく。

Mは部屋に入り、水をのむ。T子も水をのみにいく。

五、ブランコ②——友だちをさそおうとする

(・T子、M二人で友だちに呼びかけるが、だれも反応を示さない。その時、T子の気持は、ことばに表われ、Mの興味は、ジャングルジムへとうつる。)

Mはすぐブランコにもどり、左側にすわり、右側のブランコのつなをもっている。(T子のためにとっておくつもりらしい。) T子、走ってそのブランコにすわる。こぎながら、

T子「U子ちゃんも呼んであげましょうか、Uちゃーん、Uちゃーん」

M「U子ちゃんノ U子ちゃんノ」だれも何の反応も示さない。

T子「だれでもいいからちよつときてノ U子ちゃんノ こないトノ」と、叫ぶがだれも反応を示さない。

T子「いいわよノ あんなの呼ばないでおきましょう」

T子「わたしぐるぐるまわしやろうかな」という。

ブランコをこぐのをやめてMは、

「ジャングルジムやる」といつてジャングルジムの方へ走る。

T子「うんやろう」と、Mをおう。

六、おばけのまねをしておどろかす

(・たまたましたかっこうが、おばけににている。他の人をおどろかそうとこころみる。)

・Mは、別の友だちに、こころみると好反応を示す。T子をさそおう。)

二人でジャングルジムにのぼる。

T子「足だけよ」と手をはなす。Mもまねる。

T子「手しかもっちゃだめよ」と、手の力で体をささえて、足をブラブラさせる。同じようにしているMを見て、

T子「あなた、みいら」

M「T子ちゃん、おばけ」

T子「〇〇ちゃん、おばけ」と下を通る子にいう。

T子「写真屋さん(注1) おどかしてこよ」といつてジャングルジムをおりる。(注1 日常の記録写真を時々撮りにきて、子どもたちとは親しい写真屋さん)

T子「しゅうしゅう、しゅうゆ」と手を前の方におばけのまねをしながら、写真屋さんのおしりにくつつきにいく。Mもいく。

写真をうつしている最中のおじさんは、「だめだめ、さわっちゃだめ」という。

好反応のあることを期待していた二人は、調子ぬける。

Mは、つまらなさそうにスベリ台の方にかけていく。そこであそんでいる四人の男の子のグループをみつめて、「うーうーしゅゆゆ……」とおばけのまねを試みる。男の子たちは「わあー」と反応を示し、にげる。Mは、おいかけずにスベリ台のところから庭へ走ってきて、そこにいる子に、「T子ちゃんはどこ

／＼」といいながら目で庭をながめ、T子の姿をおう。

T子は、写真屋さんに失望してぶらぶらと小鳥小屋のまわりをぶらついて、山にのぼる階段のところまでくる。そこに『なめくじのおはか』とかいてある紙をみつめて読んでいる。

T子「なめくじのおはかだつて」といいながら庭の方に目をやり写真屋さんの姿に目がいく。

T子「わたし、写真屋さんのところにいこうかな」と歩きはじめ。

Mは、T子の姿を見つけて「T子ちゃん／＼ T子ちゃん／＼と走ってくる。

M「あそこのなか（スベリ台の方）おどかしにいこう」

二人で手を前にして、おぼけのまねをしながら、声をだしながらおどかしにいく。

スベリ台のところにいた男の子たちは、「キャー、おぼけだー／＼」といって上と下ににげる。二人はトンネルを通って、スベリ台の上の方までおいかけていき、またおりてくる。

Mは続けているが、T子は、興味があまりなく、タイコバシの方にぶらぶらと歩いていく。ジャリの地面に足をひきずりながら、何となくすすんでいく。

そばにいた写真屋さんにくっつく。写真屋さんは写真をとっているので軽くない。

また、同じ調子で、足をひきずりながらぶらぶらしている。

Mは、まだ、おぼけをしている。

七、ブランコ③——でんしゃごっこになる

（三回目のブランコ

・ Mは、反対向きにすわり「やまてせん」の動きになる。

・ Mの方からのあそびに対するくふうがみられる。）

T子「Mちゃん、ブランコにのろう」

T子はブランコにのり、楽しそうに「あははは……」と笑う。こぎはじめ。

となりのブランコにMは、T子と反対向きにすわりこぎだす。

M「やまてせん／＼」

T子「でんしゃごっこね／＼ ほんたいのね／＼ あはっはは……」

M「こっちだ／＼ こっちだ／＼」

T子のブランコだんだんはやくうごく。

二人のブランコがいきちがう。

T子こぎながらボールあそびの方をむいている。Mブランコをこぎながらいろいろなところをみている。ブランコをおりる。地面に足をひきずりながら鉄棒の方へかけていく。T子もブランコをおりて、鉄棒の方へいくが、先生の姿をみつめて、先生の方へいく。先生、何かいいながら、外ぐつを上ぐつとはきかえている。T子もはきかえる。Mもくつをはきかえて部屋に入る。

（記録・寺井直子）